

わが国産業の驚異的な発展は、かつて見なかった公害の問題を顕在化し、大きな社会問題を生んだ。と同時に石油を始めとする世界資源の多消費国としてのわが国がいつまでもその発展を続けることは、ほとんど不可能に近いことが危懼されていたが、果然昨年暮ころから中東の石油問題を中心として、エネルギー危機が現実の問題として登場し、それと裏腹の物価問題が大きな社会問題として登場してきた。いかに GNP が上っても、国民の健康や生活を脅かす公害が工業生産の排泄物としてばらまかれたのでは、たまったものではないし、このままでわが国の工業が伸びていったのでは、遠からず世界の石油輸出可能量の4割近くを日本が独り占めしなければならないこととなり、これもとおいて国際的に許されることではない。一昨秋、産業計画会議が公害防止と資源の有限性を強調し、従来のわが国産業構造を資源消費が少なく、しかも公害発生の可及的少ない体質に改善すべきことを世の識者に強く訴えたのであるが、世間の100パーセントの共感を得るまでには至っていなかった。昨年末からのいわゆるエネルギー危機は、アラブの石油政策を契機として、この問題を顕在化したものであって、決して突如として起ったものではないのである。いずれにしても、わが国産業構造は、さきに産業計画会議が指摘したように、資源消費の少ない、しかも公害発生の少ない、いわゆる知識集約型の産業構造に切り換えざるを得ないのは事実であろう。

わが国産業構造を変換するとすると、あえて日本列島改造といわないにしても、やはりあいつた構想のマスタープランをつくらなければならない。日本全国の適性適地に産業をばらまくとなると、その骨格をなすものは道路や鉄道、通信等々のインフラストラクチャーであって、これらを計画・設計・施工する主体が土木技術者であることを考えると、今日の土木技術者の責任は、かつて例をみないほど重かつ大であるといわなければならない。これからの日本民族の福祉・幸福は多分に土木技術者の頭脳にかかっているといっても過言ではない、と思うのである。

* 名誉会員 工博 日本国有鉄道総裁

かつてわれわれ土木技術者は所期の荷重に耐える工作物をいかにして経済的につくるかに専念してはきたが、これらの計画・設計がわが国産業全体にいかなる関係があるのか、さらにはわれわれの社会生活にいかなる影響を与えるのかについては、あまり考えもしなかったし、また考える必要もなかったようにも思われる。しかし今日、わが国産業配置のマスタープランをつくるとなると従来のわれわれ技術者の安易さは、とおいて許されるべきものではない。まず世界的視野に立って、わが国産業の姿、配置、日本民族の福祉等を考えなければならないこととなる。なるほど、これらを決定するものは国の政治であろうが、諸々の素材を提供して政治家に決定せしめるものは主として技術者である。科学技術はそれぞれの分野で細分化することによって今日の発展をみたのであるが、科学技術が真の効果を生むためには、優れた総合技術者の手をまたなければならない。私はかつて、土木工学は総合工学であるために、今日土木技術者の責任がいっそう重加されていると書いたことがある。わが国産業転換配置のマスタープランに素材を提供するものはあらゆる分野の科学技術者で、何も土木技術者に限ったことではないのはもちろんであるが、土木技術が総合工学である故をもって、土木技術者は大きな役割を演じなければならないものと私は考えている。

これからのわが国産業構造の体質を変換し、産業再配置のマスタープランを決定するものは政治であろうが、道路、鉄道、通信等のインフラストラクチャーを計画・設計する土木技術者には、「技術上不可能」という拒否権がある。

この拒否権の濫用は厳に慎まなければならないのであるが、私のいわんとするところは、計画設計者に大きな責任があるということにほかならない。現在、わが国は大きな危機に立っているといわれるが、日本民族の優れた適応性は、この種の危機を幾度も乗り切ってきているのである。土木技術者ができうる限り叡智をしばり出しわが国将来の方向づけに大きな貢献をするよう祈って止まない。